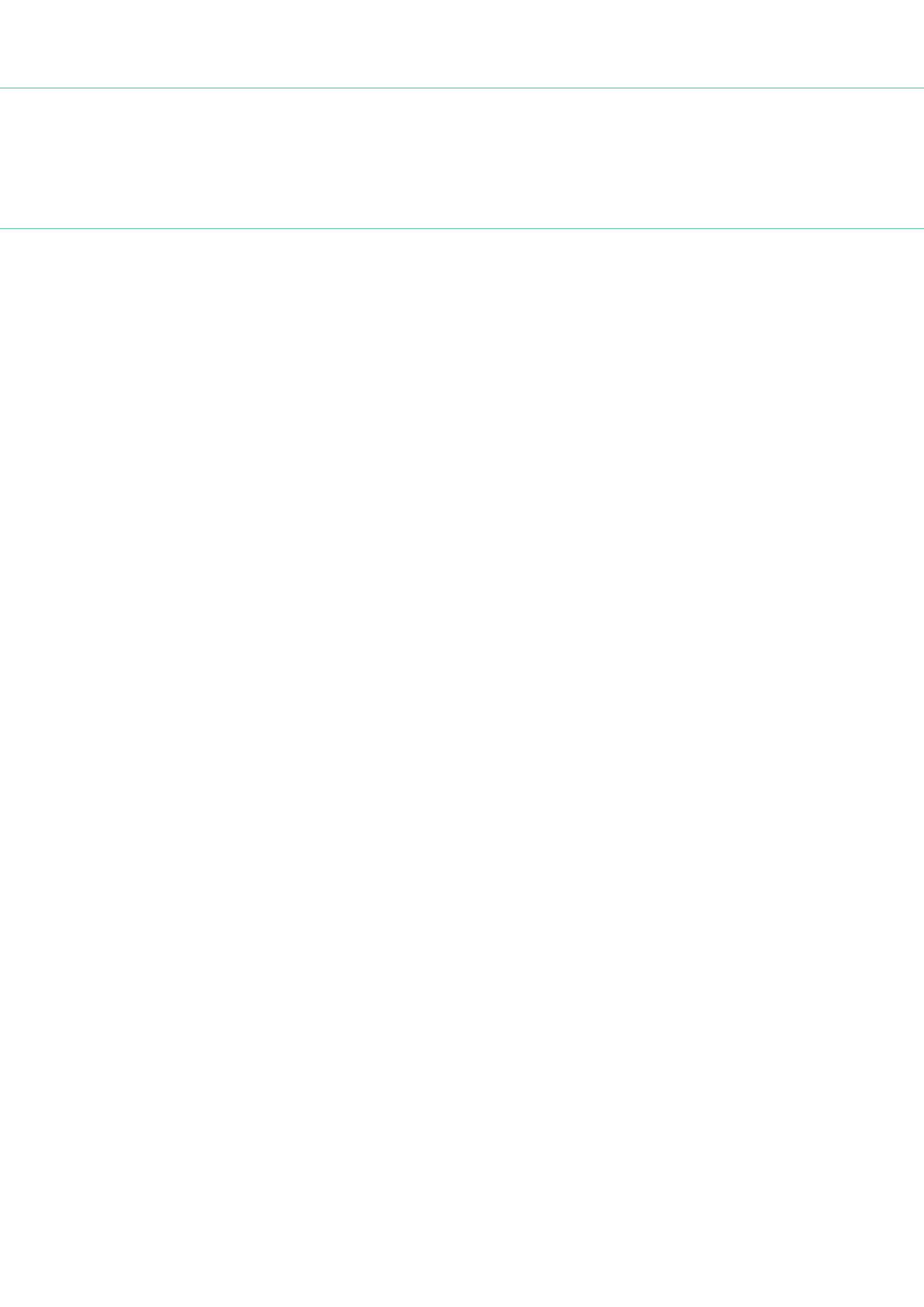


岡山商工会議所創立140周年記念
2030年に向けたまちづくり提言

持続可能な健やかさと豊かさを

日本一住みたい
「ウェルビーイングな^ま^ち都市」
おかやまへ

Well-being Smart City



はじめに

岡山市は中四国地域の交通の要衝で、岡山市から各地に出かけるにも、逆に各地から岡山市に来てもらうにも利便性の高いまちです。将来に向けて岡山市が発展していくためには、そうした地の利を活かし定住人口、交流人口をより一層増やしていかなければなりません。そのためには岡山市が住むにも訪れるにもより魅力的なまちになることが求められております。

また、岡山市は豊かな自然と穏やかな気候の下、古代から現代にいたるまで、先人たちが築いてきた数多くの歴史的・文化的資産があります。それらを守り、着実に後世に引き継いでいく必要があります。

岡山商工会議所創立140周年にあたり、10年後2030年に向けた「まちづくり提言」は、現状の変化を踏まえた上で、国連が2015年に採択したアジェンダである「SDGs (Sustainable Development Goals - 持続可能な開発目標)」と、日本政府が表明した2050年カーボンニュートラルの実現に向けた「グリーン成長戦略」の実践的な取り組みを通して魅力向上を図っていくという視点でまとめました。

2020年1月以降世界に感染が拡がり、さらにわが国においても拡大した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によって、地球規模での課題解決が必要不可欠であることや、地域内での循環型社会構築の必要性、命と経済のバランスといった公益的視点の必要性が顕著になりました。

また、ウィズコロナにおける「新しい日常」では、ソーシャルディスタンスをはじめとした命を守るための生活ルールも生まれ、生活者の意識も大きく変化してきています。パラダイムシフトとも言えるこのような状況を踏まえて、「充実したICTデジタルインフラ」と「緑化とカーボンニュートラルの実現を推進するグリーンインフラ」を兼ね備え、地消地産などの地域経済の循環も促進するハイブリッドタウン岡山を創造してまいりたいと考えます。

この提言は、「岡山市全域での取り組み」と「岡山市の顔となる中心市街地の取り組み」との2つの視点でとりまとめ、とりわけ岡山商工会議所が長年提言してきた中心市街地の取り組みに重点をおいております。

本提言が、全米一住みたいまち“ポートランド”や、学生を最も大切にする学都であり公共交通の要衝であるフランスの“ストラスブール”のように、市民一人ひとりの地道な活動とあいまって、心身ともに健康で豊かさを実感できるような「ウェルビーイング (well-being) な都市 ^{まち} おかやま」の実現に向けた道標となれば幸いです。

岡山商工会議所
会頭 松田 久

目次

はじめに	2
岡山の特色を活かしたまちづくりに向けた基本的な考え方	4
岡山市全域を魅力的で、人々が移動しやすいまちへ	5
1.岡山市内全域を最適手段で快適に移動できる「MaaS特区」とし、交通体系を構築	5
2.健康寿命延伸に向け、北長瀬エリアを医療・福祉・スポーツの「健幸特区」として整備	6
3.中心市街地をはじめ、各地に点在する歴史文化資産を活用した「歴史・文化に培われた魅力的なまち」の創造	6
4.グローバル化に対応した「外国人居住者・来訪者にもやさしいまち」を実現	6
中心市街地を緑豊かで人にやさしい「憩えるまち」へ	7
1.取り組みの方向性	9
2.具体的取り組みに向けて	10
ウェルビーイングな都市 ^{まち} おかやまへ	17

岡山の特色を活かした まちづくりに向けた基本的な考え方



岡山市ならではの自然とは
岡山市の歴史とは
そこに育まれた風土・工芸・農産物……

瀬戸内式気候、穏やかな恵まれた気候であり、
風光明媚な瀬戸内海、中国山地から流れる河川が育む緑と水の豊かな自然環境。
古代吉備の国からの歴史があり、現代まで多くの偉人・文化人を輩出している。
白桃・マスカット・ピオーネを代表とする「こだわりの果物」をはじめとした
豊かな農作物や瀬戸内の海の幸。

江戸・明治時代から続く学びの姿勢とそこに培われた
産業振興と教育の充実。
ESD(※1)が培ってきた持続可能な社会づくり⇒SDGsに高い意識+市民参加型のまちづくり

日本三名園のひとつ、ミシュランの三つ星輝く「岡山後楽園」
豊かな水を湛えた「旭川」と「吉井川」
水と緑の公園「西川緑道公園」
県外からのイメージは
「穏やかな気候、豊かな自然環境、美味しい食材」

地域のポテンシャルに基づく、東京・大阪等の大都市との差異の明確化
国内さらには海外から見ても魅力的なまちの創出
定住人口・交流人口増加による地域経済の活性化
地消地産(※2)など、地域内経済の循環によるまちの活性化

人に自然環境にやさしい「ウェルビーイングなまちづくり」に向け
「充実したICT(※3)デジタルインフラ」と
「緑化と水素エネルギーの活用などカーボンニュートラル(※4)の実現を推進するグリーンインフラ(※5)」を
兼ね備えたハイブリッドタウン岡山の創造へ

※1 ESD(Education for Sustainable Development)とは、持続可能な開発のための教育(文部科学省ホームページより)
※2 地消地産とは、長野県が地方創生総合戦略に掲げた「地域で消費するものは地域で生産する」という地域循環の仕組み。一方地産地消は、「地域で生産されたものを地域で消費する」という消費行動への呼びかけ
※3 ICT(Information and Communication Technology)とは、情報通信技術(総務省東海総合通信局ICT用語集より)
※4 カーボン・ニュートラルとは、カーボン・オフセットの取組を更に深化させ、事業者等の事業活動等から排出される温室効果ガス排出総量の全てを他の場所での排出削減・吸収量でオフセット(埋め合わせ)する取組(環境省「カーボンオフセットフォーラム」より)
※5 グリーンインフラ(グリーンインフラストラクチャー)とは、自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画

岡山市全域を魅力的で、 人々が移動しやすいまちへ

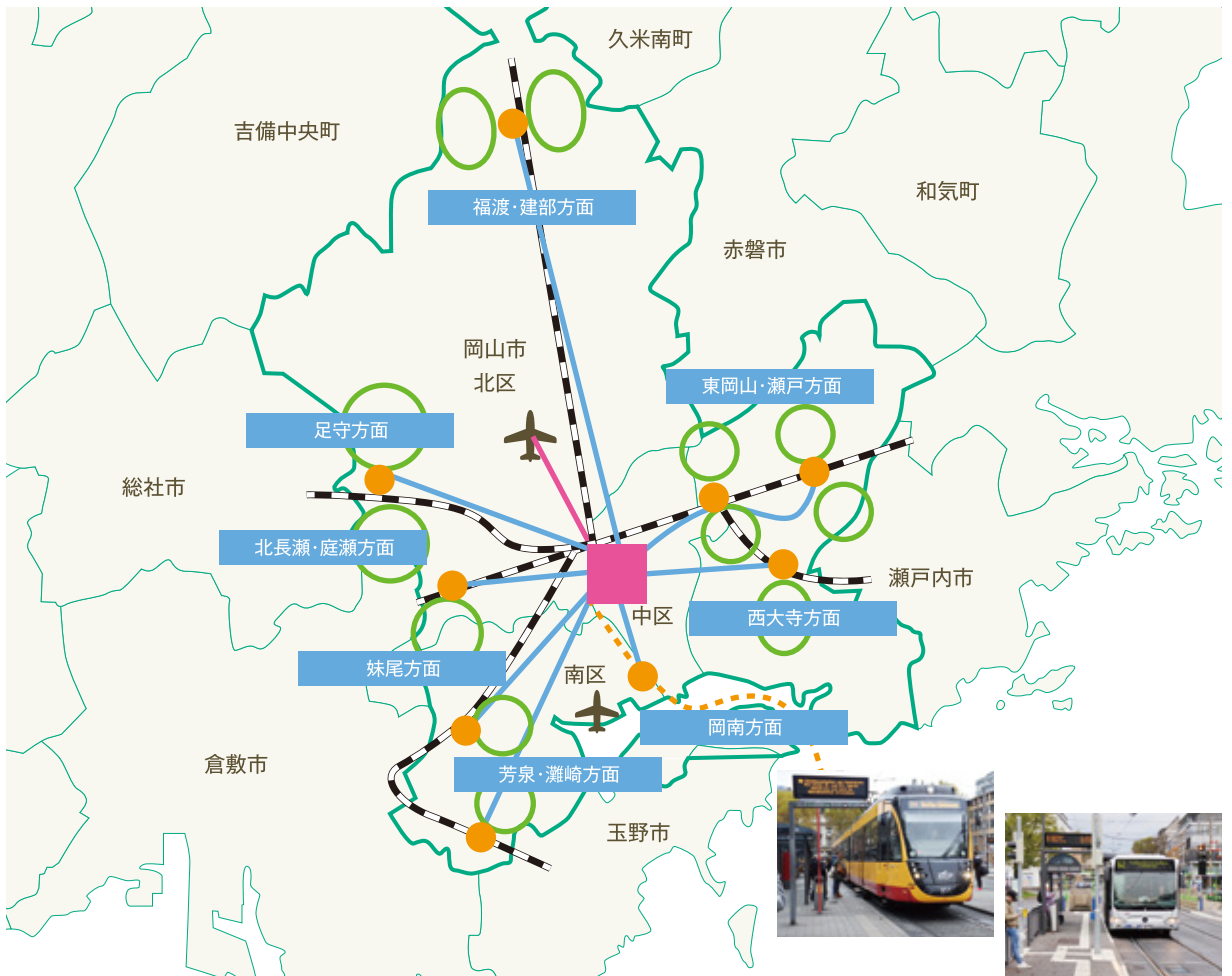
1. 岡山市内全域を最適手段で快適に移動できる 「MaaS(※1)特区」とし、交通体系を構築



グリーンスローモビリティ

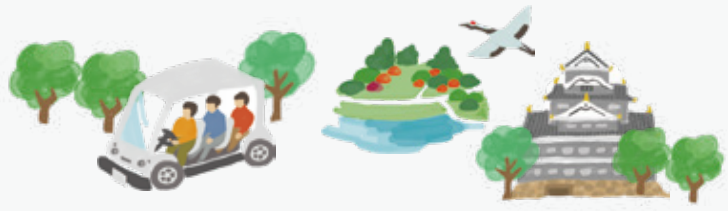
中心市街地を中心としたコンパクトシティ化とともに、郊外ハブ拠点とのネットワーク化は市民交流の視点から必要不可欠。

- 中心市街地と郊外ハブ拠点を結ぶ、自動運転EV等最新技術を導入した公共交通ネットワークの整備
- 中心市街地と岡山空港を15分程度で結ぶ新交通システムの導入
- ハブ拠点から居住地までを結ぶ、グリーンスローモビリティ(※2)やデマンドタクシー(※3)の整備
- 中心市街地に立地し古くから港町として栄えた「京橋」を起点に瀬戸内海の島々を結ぶ、観光クルーズの活性化



個別交通と公共交通の結節点の整備
〈写真〉ドイツ・カールスルーエ
地下駐車場からトラムへの乗換駅
トラム軌道上を走るバス

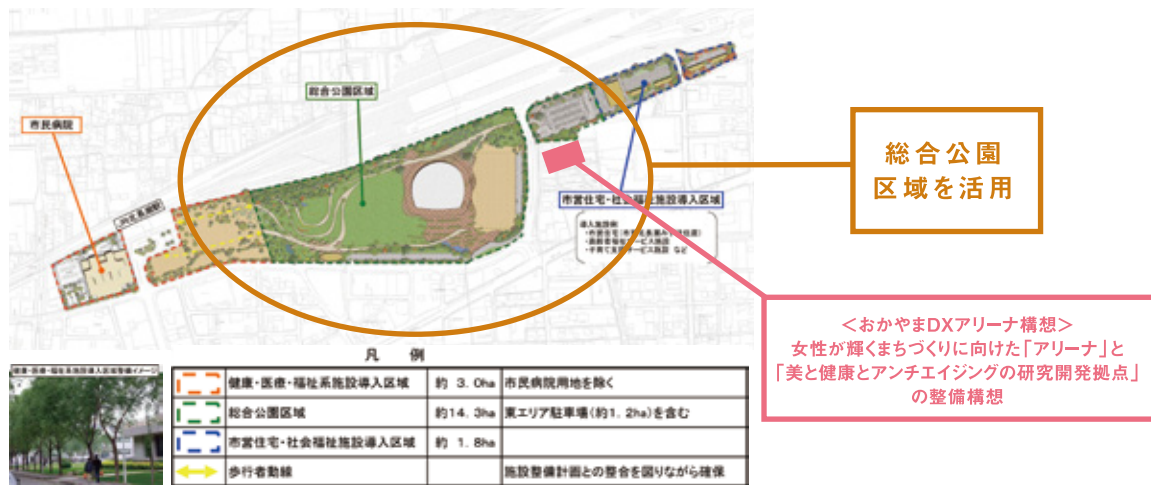
※1 MaaS(マース:Mobility as a Service)とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービス(国土交通省「日本版MaaSの推進」ホームページより)
 ※2 グリーンスローモビリティとは、時速20km未満で公道を走る事が可能な4人乗り以上の電動パブリックモビリティ(国土交通省ホームページより)
 ※3 デマンドタクシー:デマンド交通とは、電話予約など利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の一つの形態(国土交通省「地域公共交通に関する新技術・システムの導入促進に関する調査業務報告書」より)



2. 健康寿命延伸に向け、北長瀬エリアを医療・福祉・スポーツの「健幸特区」として整備

新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大で、健康に対する意識が今まで以上に高まる中で、

- ・岡山市総合医療センターを核とした医療・福祉施設の集積
- ・スタジアム・アリーナなどスポーツ施設の開設と集積
- ・医療・福祉・スポーツ統合によるデジタル技術を導入した健幸産業の集積



3. 中心市街地をはじめ、各地に点在する歴史文化資産を活用した「歴史・文化に培われた魅力的なまち」の創造

中心市街地においては、岡山城・岡山後樂園をはじめとするカルチャーゾーン整備を掲げる「岡山市都心創生まちづくり構想」の早期実現を推進するとともに、歴史的建造物の町並みとアルベルゴ・ディフーズの手法を活かした西大寺地区の活性化をはじめ、出石町津山往来、庭瀬・撫川地区、足守地区、建部地区などの伝統的建築物をはじめ、歴史的な資産を再度検証し、岡山市全域で歴史文化都市を形成し、歴史を探訪しながら歩いて楽しいまちを創出。



西大寺地区の歴史的町並み



出石町津山往来の町並み



庭瀬往来の歴史的町並み

4. グローバル化に対応した「外国人居住者・来訪者にもやさしいまち」を実現

訪日外国人対応、さらには外国人高度人材の受け入れ促進に向けて、

- ・外国人にもわかりやすいサインの設置
- ・外国人に向けた教育機関の設置と医療施設の外国人対応の推進
- ・ムスリム等各地域の生活文化に則したおもてなし対応などの推進



中心市街地を 緑豊かで人にやさしい「憩えるまち」へ

都市の顔であり、都市の発展をリードする「都心」の魅力を高めることが、岡山市全体の発展にもつながります。

現在、岡山市の中心部（都心）では、高層マンションの建設により都心人口は増加し、さらに今後も再開発が続く中、都心人口の増加は継続するものと想定されていますが、一方では空き店舗が増加し、都市のスポンジ化も同時に進んでいます。このため、市民が住み続けたく、来訪者は訪れたいくなるような都心の魅力向上がまちづくりの課題となっています。

当所が1994年に提言した「人と緑の都心1kmスクエア構想」の「都心は人が集まり住むところ」という理念の実現は、SDGsの目標達成にもつながるものです。

その理念に立ち返り、岡山市の将来像（ビジョン）、社会的使命（ミッション）、共有する価値観（バリュー）を明確にし、「ウェルビーイングな都市 おかやま」に向けた取り組みとして提言するものです。

理念

—人と緑の都心1kmスクエア構想の理念—
「都心は人が集まり住むところ」

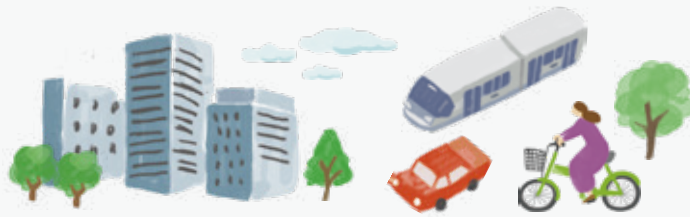
岡山市の将来像（ビジョン）

SDGsの実践を通して、人々が心身ともに健康で、豊かさと幸せを実感できる
「ウェルビーイング（well-being）な都市おかやま」を実現する。

社会的使命（ミッション）

「Quality of Lifeの向上、SDGs・グリーン成長戦略の実践」

- ICTデジタルインフラとグリーンインフラを兼ね備えたハイブリッドタウンの構築
- イノベーションの創出によるまちづくりと産業の振興



共有する価値観（バリュー）

○守るべき大切なもの

穏やかな気候、豊かな水と緑、医療・福祉先進都市

○市民参加・市民主体によるまちづくりを産官学金言民一体となって実践

ハード投資から人材育成・人材交流活性化への投資へ
より良い社会を目指す「利他の精神」の浸透と共感の創出
グローバルな産業提携の拠点化を推進

○交通・空間の共有化の推進

公共交通整備 カーボンニュートラルの実現

公共空間整備 心とからだを癒す、緑豊かなまちづくり

所有と使用の分離による土地の有効活用

—広場・公園・居住地、ニーズに則した店舗誘致・起業促進

○ICTデジタル整備による自然と調和した人にやさしいまちづくりの推進

○DX（デジタルトランスフォーメーション）^(※)による生産性向上の実現

○交通の利便性とICTデジタルインフラを利用した新たなハイブリッドコンベンションシティの推進

○災害に強い都市整備とライフラインの強靱化による安全・安心なまち

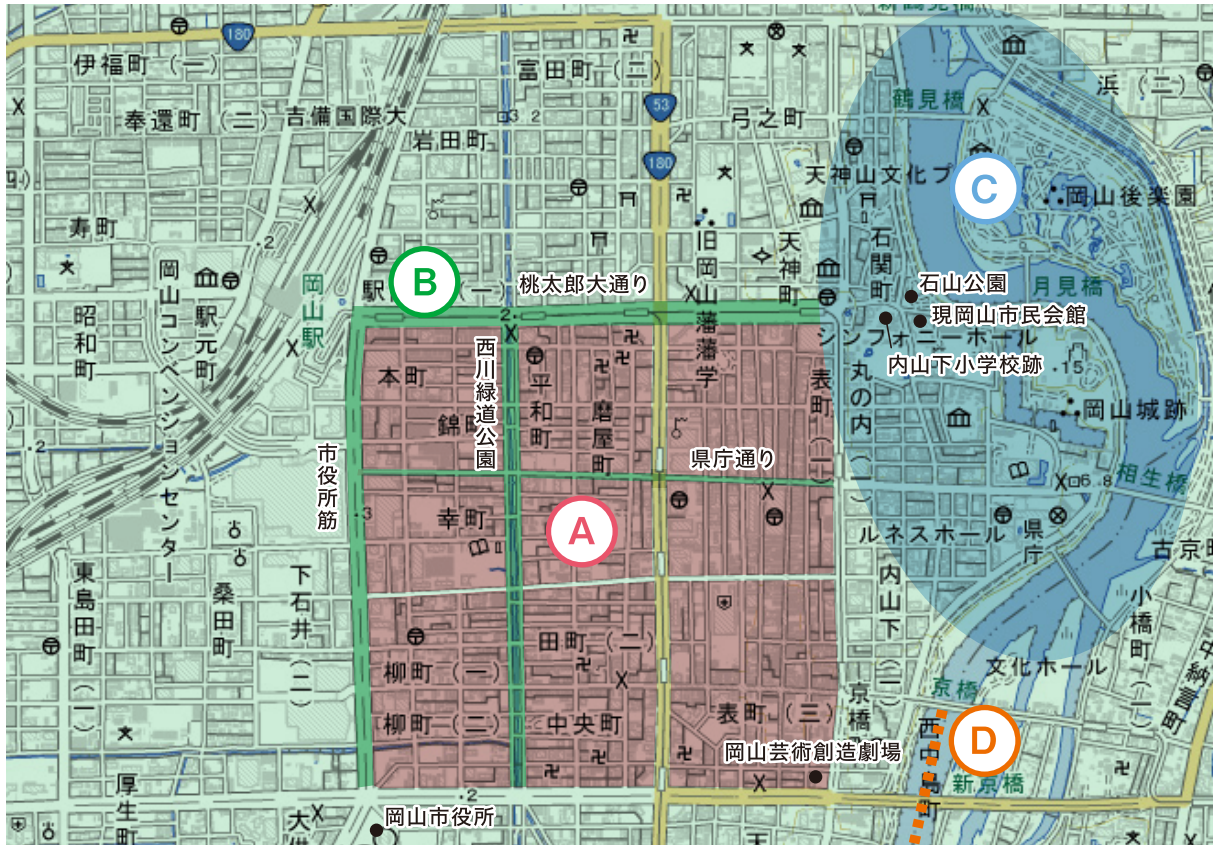
※DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは、スウェーデンの大学教授のエリック・ストルターマンが提唱した概念であるとされ、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」（総務省 令和元年度情報通信白書より）

1. 取り組みの方向性

	目的	手段
居住者にとって	住み続けたいまち	
	気持ち良い・心地よい・開放感がある、歩きたいまち	景観がよい 緑が多く季節感が感じられる 公園・広場、遊歩道が整備 歩いて楽しいウォークアブルシティ
	便利なまち	買い物、通院、通学
	働きやすいまち	ICTデジタルインフラ整備やDXによる生産性の向上 通勤しやすい
	災害に強く安全で安心なまち	常にライフラインが刷新 グリーンエネルギーによるカーボンニュートラルの実現
	歴史・芸術・文化が香るまち	歴史・芸術・文化が香るシンボリックゾーンの整備 カルチャーゾーンや隣接地域との周遊性の向上
来訪者にとって	一人ひとりが輝く健幸なまち	自転車先進都市 医療・福祉先進都市 プロスポーツの応援 地消地産の豊かな食事
	訪れたいまち・住みたくなるまち	
生活を支える交通インフラ	歩いて楽しいまち 人と出会えるまち 会話が生まれるまち	緑が多く季節感が感じられる 美しい景観に出会える 訪日外国人にも配慮したサインの充実 歴史・芸術・文化が香るシンボリックゾーンの整備 オープン(開放的)なお店(カフェ・レストラン・ショップ) 地消地産の楽しい食事 カラフルなマルシェ
	創造的なまち	クリエイティビティが刺激される ICTデジタルインフラ整備 ハイブリッドコンベンションシティの推進 (現地開催とオンライン開催の融合)
生活を支える交通インフラ	移動しやすいまち	
	歩行者・自転車・公共交通優先の 人にやさしいまち	人にやさしいフラットな歩道の整備 路面電車の岡山駅乗り入れ 路面電車の環状化 JR吉備線(桃太郎線)LRT化 移動しやすいバス路線 (行先の明瞭化・乗り換えの利便性) ももちゃりの活性化(ポート整備) 超小型モビリティやグリーンスローモビリティの活用 ICTデジタルインフラの整備(MaaS化) 周辺部の駐車場整備と都心部の駐車場用地の有効活用



2. 具体的取り組みに向けて



中心市街地を緑豊かで人にやさしい「憩えるまち」へ

A	<p style="text-align: center;">「公共交通・公共空間」最優先エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「1kmスクエア」を歩行者・自転車・公共交通優先の人にやさしいエリアに設定 ○緑豊かな幅広い歩道や「サードプレイス」^(※)としての公園・広場を ○新たなお店等スタートアップ(起業)に活用できる公共空間として重点整備 ○先端モデル地域整備から、ブロック毎に10年間で順次計画的に公共空間を整備
B	<p style="text-align: center;">「岡山市のメインストリート」の緑化推進</p> <p>桃太郎大通り・県庁通り・市役所筋・西川緑道公園等のメインストリートの緑化の推進、 花々による景観整備、カフェやショップの誘致を通して、歩いて楽しい通りに</p>
C	<p style="text-align: center;">「歴史・芸術・文化のシンボリックゾーン」の整備</p> <p>岡山後楽園・岡山城・石山公園・現岡山市民会館・内山下小学校跡を中心に、 歴史、さらには芸術文化のシンボリックゾーンとして整備</p>
D	<p style="text-align: center;">「京橋」と瀬戸内の島々を結ぶ観光クルーズの活性化</p> <p>交通至便な中心市街地に立地する「京橋」と瀬戸内の島々を結ぶ観光クルーズを活性化し、 魅力的な瀬戸内の景観を楽しめる体験型観光を推進</p>

※サードプレイスとは、アメリカの都市社会学者であるレイ・オルデンバーグ(Ray Oldenburg)氏が1989年に著書『The Great Good Place』内で提唱した言葉
自宅(ファーストプレイス)でも職場・学校(セカンドプレイス)でもない、自分にとって心地の良い時間を過ごせる第三の場所という意味

[中心市街地商店街の新たな展開]

中心市街地の商業の活性化に向けて、

……緑豊かな中心市街地と商店街の景観整備一体化を推進

〈岡山市の取り組み〉

賑わいのある中心市街地の創出に向け、
「岡山駅周辺エリア」と「旧城下町エリア」をつなぐ
県庁通りの車道を1車線化し、歩道を拡幅するとともに
街路樹を増やし、快適でゆとりある歩行空間を確保
—— レストラン、ショップ、マルシェ等誘致を推進 ——



岡山芸術創造劇場が開設される
「千日前商店街整備基本計画」
音楽・演劇・アートなどエンターテインメントがあふれる
「歩いて楽しい道路空間」創出
花と緑のある憩いの街
「せんにちまえ パークアベニュー」構想



[歩いて楽しいまち、わかりやすいまちへ]

岡山商工会議所では、愛称のついていない主な通り
(東西道路)、筋(南北道路)の愛称を市民から募集、
2020年(令和2年)6月1日市民の日に募集を開始し、
12月に選定

ひとまち筋	市役所筋の一本東、高島屋の裏手を通る南北の道
野殿橋通り	ドン・キホーテ岡山駅前店の南側から東に向かって日本銀行岡山支店へ抜ける道
宵待ち筋	西川緑道公園の一本東の筋で田町・中央町を通る道
御幸通り	山陽新聞社北側から柳川筋にいたる道

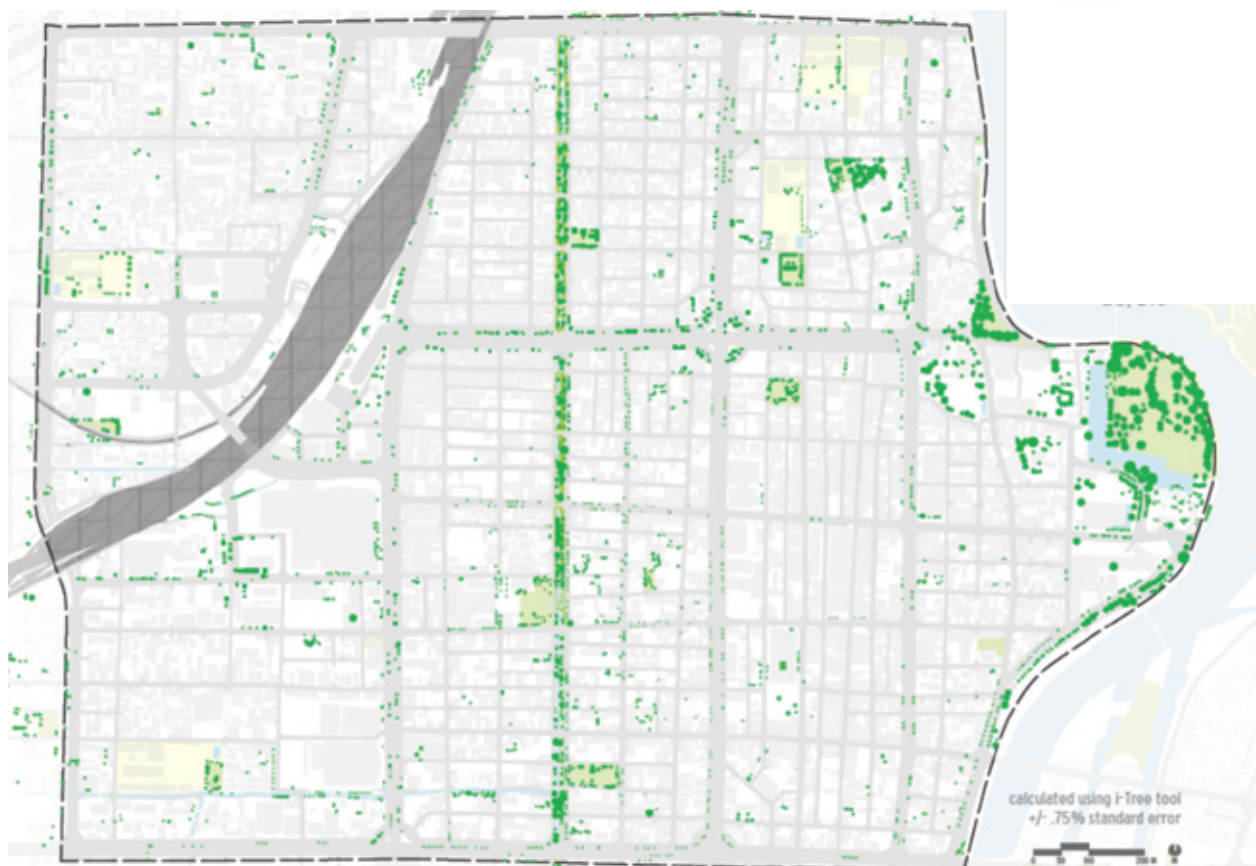
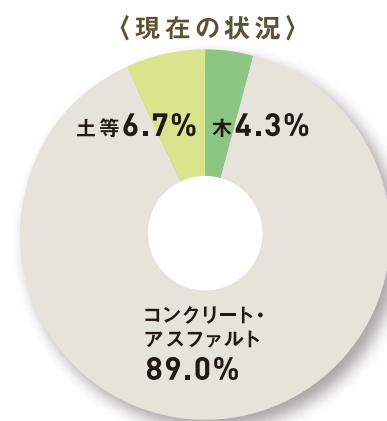




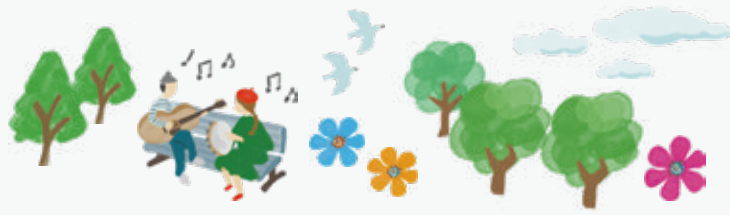
整備計画イメージパース

中心市街地を緑豊かで人にやさしい「憩えるまち」へ

[中心市街地緑地の割合のアップを]



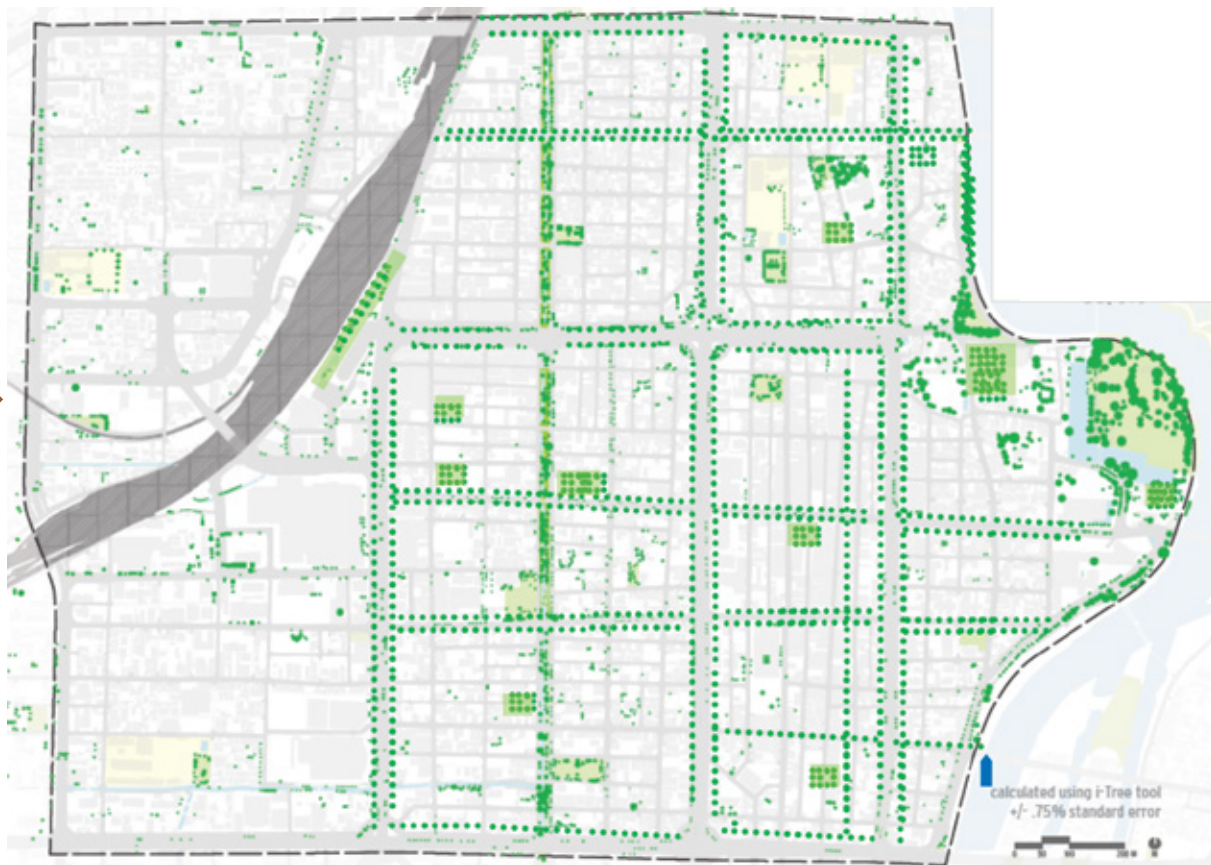
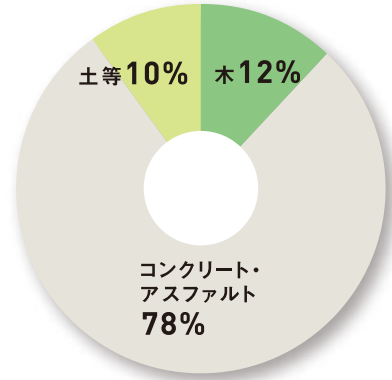
岡山大学地域総合研究センター フルブライト研究員 サウミヤ キニ氏作成



緑化アップのイメージ

桃太郎大通りや県庁通りをはじめとした主要道路と公園など公共空間の緑化を推進

〈将来のイメージ〉



岡山大学地域総合研究センター フルブライト研究員 サウミヤ キニ氏作成に追記加工

中心市街地を緑豊かで人にやさしい「憩えるまち」へ

[ICTデジタルインフラとグリーンインフラが整備された生活しやすいまち]
～住み続けたいまち、訪れて住みたくなるまちへ～



移動しやすいまち

交通

- 自動運転公共交通の導入
- 低炭素化に向けたEV導入
- 目的地までの最適交通手段をつなぐ「MaaS」整備
- デジタル機器による高齢者、障害者の移動支援
- 配送ロボット導入による効率化

健やかなまち

健康・医療

- ウェアラブルデバイス^(※1)等デジタル機器による健康管理
- 各種データに基づくヘルスケア産業育成
- 遠隔医療、オンライン医療
- データを活用した地消地産による地元の旬の食材生産と食育



きれいなまち

環境

- データ活用によるゴミ回収の効率化
- 判別ロボットによるゴミ分別の徹底と効率化
- 中心市街地緑地の割合のアップ



自然環境にやさしいまち

エネルギー

- グリーンエネルギーによるカーボンニュートラルの実現
- グリーンエネルギーの調達、供給インフラの整備
- エネルギーのデジタル管理による省エネ

子どもたちを大切にするまち

教育

- オンラインラーニング、アダプティブ・ラーニング^(※2)等教育のデジタル化
- デジタル時代に対応した「STEAM教育」^(※3)



便利なまち

手続き

- 各種手続きのオンライン化による省力化
- マイナンバーカードの利活用
- キャッシュレス決済



※1 ウェアラブルデバイスとは、腕や頭部などの身体に装着して利用するICT端末のことで、デバイスに搭載されたセンサーを通じて装着している人の生体情報を取得・送信し、クラウド上で解析しフィードバックする(総務省「平成27年版 情報通信白書」より)

※2 アダプティブ・ラーニングとは、学習データ等を活用した学習状況の「見える化」等による個に応じた指導(文部科学省「Society5.0におけるEdTechを活用した教育ビジョンの策定に向けた方向性」より)

※3 STEAM教育とは、Science,Technology,Engineering,Art,Mathematics等の各教科での学習を社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育(文部科学省「令和元年9月4日教育課程部会資料「STEAM教育について」」より)



中心市街地を緑豊かで人にやさしい「憩えるまち」へ

ウェルビーイングな都市 ^まち ^ち おかやまへ

岡山商工会議所は、150周年を迎える2030年に向けて、ウィズコロナ・アフターコロナ、さらにはSDGsやゼロカーボンシティ(※)への取り組みを進めてまいります。

あらゆる年代の人々が安全に安心してアクティブに行動できる公共交通ネットワークの充実と緑豊かな公共空間の充実を推進するとともに、人々が生き生きと交流する新しいライフスタイル、場所や時間に束縛されないフレキシブルな働き方の実現を目指します。さらにはカーボンニュートラルの実現にもつながる地域産品にこだわった新しい消費スタイルの創出、様々な起業支援などのソフト事業の展開やDXの推進による産業振興により、真に豊かな地域づくりに積極的に取り組んでまいります。





主な取り組み

岡山商工会議所は、人に自然環境にやさしい「ウェルビーイングな都市^{まち} おかやま」に向け、「充実したICTデジタルインフラ」と「緑化と水素エネルギーの活用などカーボンニュートラル実現を推進するグリーンインフラ」を兼ね備えたハイブリッドタウンを目指して次のような活動に取り組めます。

- ① 当提言書の理念、岡山市の将来像（ビジョン）・社会的使命（ミッション）・共有する価値観（バリュー）を共有化し、「サードプレイス」を楽しむ新たなライフスタイルの創出やゼロカーボンシティの実現に向けて、
 - ・セミナー・シンポジウム・ワークショップを市民や事業者の参加を得て継続的に開催し、コンセンサスづくりを推進します。
 - ・中心市街地、各拠点での市民交流事業の継続的開催を支援します。
- ② 歴史・文化の保存・継承を通じた魅力的なまちづくり活動を支援します。
- ③ スポーツ施設の新設やヘルスケア産業誘致を支援します。
- ④ 中心市街地や各拠点に新たなライフスタイルを創造するため、文化施設の新設や店舗誘致、起業創出、地消地産を支援します。
- ⑤ DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し活発な経済活動を促すとともに、国内外からの流入人口増加を目指して産学官との協力を推進します。

※ゼロカーボンシティとは、2050年に温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素を実質ゼロにすることを旨とする旨を首長自らが又は地方自治体として公表された地方自治体



岡山商工会議所創立140周年記念

2030年に向けたまちづくり提言

持続可能な健やかさと豊かさを

日本一住みたい「ウェルビーイングな都市」おかやまへ

2021年(令和3年)3月

発行 岡山商工会議所

岡山市北区厚生町3丁目1番15号

TEL:086-232-2262 FAX:086-225-3561